

指定校番号	28026	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立上温品小学校	校長	山名 朋子	生徒指導主事	木村 文美
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『縦割り活動』**

**取組のねらい『キーワード 異年齢集団で遊ぶことにより人との関わりについて学ぶ』**

・1年生～6年生までの異年齢集団（たてわり）を作り，活動することで，人との関わり方を学ばせ，コミュニケーション能力を育てたり，思いやりの心を育てたりする。

**取組の具体的内容『キーワード 思いやり・協力』**

- 上温っ子タイム
  - ・第3金曜日の昼休憩から掃除時間にかけて，6年生を中心に遊びを考えてたてわり班で遊ぶ。
- たてわり読書
  - ・読書タイムの時間に6年生が1年生に，5年生が2年生に，4年生が3年生に絵本の読み聞かせをする。
- たてわり石拾い
  - ・年に4回，掃除時間にたてわり班でグラウンドの石拾いをする。

**取組の課題・創意工夫『キーワード 児童同士の主体的な関わりを増やす』**

- たてわり班1つにつき，教諭も1名配属することで，より細かい見取りができた。
- 上温っ子タイムについて
  - ・グラウンドを4分割することで，狭い範囲になり，6年生を中心に，どの学年でも遊べる遊びを考え遊ぶことができた。（写真①）
  - ・反省は「仲良くできたか。」「困ったことはあったか。」の2点で話し合っており，11月は「よくできている」グループがほとんどであるが，時々トラブルなどもあるため，教師が仲裁することもあった。
  - ・6年生が1グループに1，2名なので，最初の頃は教師の力を借りないと下級生の意見をまとめられないグループもあったが，今ではグループだけで話し合いができるようになった。（写真②）



(写真①)



(写真②)

### ○たてわり読書（写真③）

- ・高学年は、たてわり班の下級生を思いながら絵本を選び、読む練習を重ねて本番にいかすことできた。
- ・下学年の児童も、静かに楽しそうに聞くことができた。1年に数回するのが理想であるが、今年は年度途中の提案になったため、1回しかできなかった。

### ○たてわり石拾い（写真④）

- ・本来ならば、全校たてわり清掃が目標であるが、まずは、クラスごとにしてきた石拾いをたてわり班で実施した。私語をしてはいけないので、石がある所をジェスチャーで伝えることができた。また、ゲーム感覚で石拾いをするので、クラスごとの石拾いよりもたくさん小石を集めることができた。
- ・各教諭が担当の班の児童の様子を「協力していたか」、「だまって活動できたか」、「たくさん石を拾えたか」という項目でチェックをし、結果を集計し、高得点だったベスト3を放送で発表した。



(写真③)



(写真④)

### 取組の成果（効果）『キーワード 心にブレーキをかける』

- ・1年間に4回、学校生活についてのふり返り「心のブレーキふり返りカード」（10項目）を実施し、クラスごとや学校全体の集計を掲示し、生活に生かせるようにすることで、「きちんとできた」と回答する児童が増加している。

#### ○ 正しい言葉づかいについて

- ・「正しいことばづかいで話す。」という項目では、「きちんとできた。」と回答した児童が4月は64%→11月は70%で6%向上した。

#### ○ 人のいやがることをしないについて

- ・「人のいやがることをしない。」という項目では、「きちんとできた。」と回答した児童が4月は67%→11月は76%で9%向上した。

### 今後の展開『底上げ』

- ・心のブレーキふり返りカードでは、「できた」から「きちんとできた」と言える児童が増加しているが、一方では、「あまりできなかった」「できなかった」という児童も10%見られるので、改善できるような取組を進めていく必要がある。

### 他校へのアドバイス『キーワード 意識付け』

- ・児童を意欲的に活動させるには、計画、実行、ふり返りを意識づけることが大切だと感じている。また、「長幼の序」⇒「①高学年は低学年を敬い、低学年のモデルになる様に。」「②低学年は高学年を敬う様に。」を図ることが望ましい人間関係の向上につながると考えている。